

## 大阪地域における男性同性間の HIV 感染予防介入研究

研究分担者：鬼塚哲郎（京都産業大学）

研究協力者：山田創平、辻宏幸、後藤大輔（財団法人エイズ予防財団）内田優、鍵田いずみ、塩野徳史、町登志雄、原澤俊也、祝雄一、大畑泰次郎（MASH 大阪）木村博和（横浜市健康福祉局）金子典代、ジェーン・コーナー、大森佐知子（名古屋市立大学大学院）日高庸晴（関西看護医療大学）市川誠一（名古屋市立大学）

### 研究要旨

平成 20 年度、MASH 大阪は以下のような研究事業を実施した

- 1．以下の介入プログラムを実施した：1) コミュニティレベルのプログラムとして、コミュニティペーパー〈SaL+〉の発行と効果評価：2) グループ・個人レベルのプログラムとして、ドロップインセンター〈dista〉関連事業の実施と効果評価、STI 勉強会〈Café Chat〉の実施、若年層ネットワーク構築支援プログラム〈Step〉の実施
- 2．効果評価の基礎データを得るため、大阪地区の MSM 向け商業施設集積エリア〈堂山〉〈ミニミ〉〈新世界〉の地域間人口流動の実体を解析した。その結果、堂山地区を中心とした MSM 人口の流動実体が明らかになった。この結果は、堂山地区を中心として事業を展開している MASH 大阪のこれまでの活動に根拠を与えるものである。
- 3．平成 18 年度に引き続きクラブ顧客層を対象とした質問紙調査を実施した（別稿参照）。

#### A. 研究の目的

本研究の目的は、平成 20 年度に実施された研究事業を記述・分析し、効果評価と照合することで、個別施策層向け予防介入事業のモデル構築を試みるところにある。

#### B. 研究方法

本研究の対象は、2008 年度に MASH 大阪によって実施された予防介入プログラムであり、後述する効果評価の結果と比較検討したうえで考察を加える。比較検討、考察にあたっては、疫学とその周辺領域のみならず、組織論、ソーシャルマーケティング理論、社会学といった広い領域からの言及を行うこととする。

#### C. 研究結果

各プログラムの実施状況について、順次報

告する。

##### 1．コミュニティペーパー〈SaL+〉の配布（これまでの流れ）

2000～2002 年度に開催された臨時検査イベント SWITCH を通して得られた情報をコミュニティに還元するためのツールとして構想された〈SaL+〉は、2003 年度に入りコミュニティペーパー的性格を強めながらコミュニティに浸透してゆき、2004 年度実施したフォローアップ調査の結果、関連知識、受検行動、予防行動のいずれにおいても、受取り群には非受取り群と比較して有意な効果がもたらされたことが示唆された。

(プログラムの目的)

- ・MASH 大阪が把握している情報をコミュニティに還元する。
- ・配布活動を通じて、コミュニティとのネットワークを構築する。
- ・地域に密着した情報を発信し共有化をはかることで、コミュニティへの帰属意識を涵養する。

(配布実績)

今年度の配布実績を(表1)に掲げる。

(途中経過および今後の展望)

配布は順調に行われた。「コミュニティ関連情報」と「セクシュアルヘルス関連情報」のバランスも定着した。

従来、<SaL+>の発行部数は7000部であるが、8月～9月にかけては8000部と1000部増刷している。発行部数のほとんどは、ゲイタウンや団体への配布であるが、夏～秋にかけては大型のイベント会場等で配布した。

<SaL+>に関しては、現在バージョンアップをあわせた再構築が行われている。

今後は現行の<SaL+>と平行しながら、紙面の構成もあわせ、<SaL+>を発行する準備を継続して行くための体制作りを含めたプログラムの再構築を行う。

## 2 . STI 勉強会

(事業の目的)

<CAFÉ CHAT>とは、エロネタや恋愛ネタを中心に身近で興味をひくようなテーマを設定し、一義的な展開や啓発色の強いメッセージを発信するのではなく、自らの言葉で意見、情報を交換し、多様な性や生活のあり方を認め合い、その雰囲気共有するものである。自分達にとってのSEXを考え、語ることにより、SEXに対する興味や意識を喚起し、SEXと密接な関係にある性感染症に対する認識を促すことを目的とする。

また、SEX の話題の中にセーファーセックスに関する情報を盛り込んだり、プログラムの最後にSTI やセーファーセックスに関連する情報を提供するミニ勉強会を設けることにより、STI やセーファーセックスに対する知識向上と共に予防と共生の意識を浸透させることを目指すプログラムである。

(事業の手法)

手法として以下の点を挙げることができる。

- ・ファシリテーターを設け、対話形式での展開を行う。参加者が楽しんで取り組めるよう、テーマに沿った資料やゲーム等を使用。
- ・<CAFÉ CHAT>を問題なく円滑に進行させるため、グランドルールを設ける。
- ・参加者が意見を発し、取り組みやすいような場所や雰囲気を設定する。(カフェ形式 etc)
- ・プログラム最後15分程度のSTI勉強会や、SEX の話題の中にセーファーセックスを意識するような仕掛けを設ける。特に必要な情報として「感染症/経路/症状/対応/検査」「セーファーセックス/行為」「コンドーム/セックスの道具/使い方/入手方法」を盛り込むこととした。

今年度は、毎月第2土曜日の夜間20時～22時に意見交換と15分程度の勉強会を実施し、22時以降は翌朝5時までフリートークのカフェへ移行。対話や相談等の場となることに留意した。また、10月にはPLuS+2008での展示パビリオンとして<CAFÉ CHAT>を実施し、毎月使用している<dista>外の場所での対話や対話を醸成する企画を実施した。

広報として<SaL+>での告知、mixi等を用いた。

(プログラムの効果)

プログラムの効果として以下の点を挙げることができる。

- ・エロネタや恋愛ネタなどの身近なテーマ設

定は参加者の興味をひき、参加者自身の積極的な発言を促すことができた。また、情報を持ち帰ってもらったり、実生活に役立つ情報を共有することの有意性が感じられた。

- ・15分程度のミニ勉強会や対話の中でセーフアセックスを意識するための仕掛けを設けることで、必要な情報を的確に伝えやすく、参加者への意識づけが可能な機会となった。
- ・スタッフ自身にとっても身近なテーマを扱い運営することで、企画の立案や情報の伝達の方法、ファシリテーション技術の取得に関して向上が見られた。
- ・コミュニティスペース<dista>や少人数に対する運営は成功したが、今後新規クライアントの獲得を目指す場合の広報の手法や、運営方法の見直しが必要であると思われる。また、クライアントにとって必要で有意義な企画となるための、実施場所や実施回数等についても検討を行う。

なお、2008年3月から実施したプログラムを(表2)として示す。

### 3. ドロップインセンター<dista>

(事業の目的)

大阪地域のゲイ男性が利用する商業施設が多い地域に啓発普及の活動拠点を整備・運営し、HIV/STI感染予防に向けた啓発プログラムを戦略的に展開することを事業の目的とする。ドロップインセンターの機能は以下のとおり。

予防啓発事業の拠点機能として

- ・啓発活動およびアウトリーチのベース基地(啓発の実施・普及機能)
- ・予防啓発に関わるスキル研修会・講習会会場(人材育成機能)
- ・セーフアセックス勉強会やワークショップ会場(啓発普及機能)
- 情報センター機能として

- ・コミュニティの人がふらっと自由に立ち寄れて、セクシュアルヘルスに必要な情報やコミュニティの情報を持ち帰ることができる(情報の還元・普及機能)
- ・相談場所・窓口(相談機能)
- コミュニティセンター機能として
- ・コミュニティ交流プログラム会場(地域交流機能)
- ・コミュニティからのリアクションをフィードバックさせる(情報収集機能)
- ・リピーターを獲得し、その人達と相互に確実な情報伝達をくりかえすことによって、コミュニティ内のキーパーソンの育成をはかる。

(対象クライアント)

対象クライアントとして以下を想定した。

- 1.ゲイ関連施設従業員
- 2.ゲイ関連施設利用者
- 3.インターネット利用者
- 4.エイズ対策関連団体/個人

(成果目標)

成果目標として以下を想定した。

- ・当事者性を重視した予防啓発活動を、コミュニティの中心エリアで実施し、コミュニティメンバーや関係機関との連携・協働により、セクシュアルヘルスの増進、セーフアセックスへの環境づくりを目指す
- ・<dista>を核としたコミュニティ・ネットワークを構築し、そのネットワークを通じてHIV/STIの予防や共生のメッセージと正しい情報が伝わってゆくことを目指す。
- ・情報と空間・時間を共有し、HIVを身近に感じる人が増えていくことで、HIV/AIDSの予防と共生の意識がコミュニティ全体に広がり、行動変容を促すことを目指す。

(運営体制)

2007年度は基本オープン時間を火曜日～

金曜日および日曜日 17:00～23:00、土曜日 17:00～5:00 とし、月曜日を休館日とした。17:00～20:00 を A シフト、20:00～23:00 を B シフト、及び土曜日の 23:00～5:00 を C シフトとして、運営スタッフとコンシェルジュ( ボランティア・スタッフ ) がシフトを組んで dista 運営業務に当たった。

コンシェルジュは現在 13 名が稼働している。

コンシェルジュ業務の他に、イベントの企画運営に関わる部門をイベント部、相談業務に関わる部門を支援部とし、それぞれにリーダーを設置した。

支援部のリソースとして連携構築中の専門家・機関として以下がある。

・ソーシャル・ワーカー	2 件
・カウンセラー	1 件
・当事者団体	5 件
・セクシュアルマイノリティ電話相談	1 件
・HIV 陽性者電話相談	1 件
・外国籍の人への支援団体	1 件
・薬物依存からの回復支援団体	1 件
・弁護士	1 件

今後、さらにリソースの質と量を充実させていくことが目標である。

( 来場者 )

来場者数の推移、カフェイベントの実施状況を( 表 3 )( 表 4 )( 表 5 )として以下に掲げる。

( 相談 )

相談件数の推移と相談内容を( 表 6 )及び( 表 7 )として以下に掲げる。

( 事業の成果 )

事業の成果として以下の点を挙げることができる。

- ・相談体制を強化する為に支援部を設置した。
- ・相談件数が前年より増加した。

- ・支援部により各相談リソースとの連携が構築された。
- ・< dista > の運営に関わるボランティア・スタッフである「コンシェルジュ」の人員が拡充され、運用が強化された。
- ・新規イベントが積極的に企画・実施された。
- ・来場者数は堅調に推移し、とくに新規イベント実施時には初来場者の増加がみられた。
- ・新規利用者は月平均 86 名程度であり、増加傾向にある。
- ・本年度は、新規来場者は来場者全体の約 10 パーセントで、イベント新規参加者はイベント参加者全体の約 17 パーセントを占めた。

#### 4 . 若年層ネットワーク構築支援プログラム

##### < step >

( 事業の目的 )

コミュニティにあまりアクセスしていない 10 代～20 代の若者をターゲットとしたプログラムである。プログラムの目的として以下の点が考慮されている。

- ・コミュニティや、MASH 大阪に未接触の若者に対する入り口となる事
- ・参加者が< dista >へアクセスするようになる事
- ・他のプログラムへのボランティア・リクルートになる事

( 方法 )

- 事業は以下の点に留意しつつ展開された。
- ・啓発色をださず、季節感やお得感、遊びに行く、楽しむ、友達作りなどの企画を実施する。
- ・コミュニティスペース< dista >へアクセスするきっかけを提供する。
- ・mixi ( 大手の SNS = ソーシャルネットワーキングサイト ) を中心とした広報宣伝を行う。

- ・プログラムに関わるスタッフの友人の中であまり情報に触れていないクライアントを主なターゲットとする。
- ・企画運営実行は主にコミュニティの若者が中心に行うものとする。

#### (事業の状況)

今年度は6回のプログラムを実施した(3月~12月現在)。以下に(表8)として今年度の活動実績を整理する。

また、<step>からMASH大阪が提供する他のプログラムへ接触した人数(2008年4月~12月末)を(表9)として以下に掲げる。

#### (事業の成果)

プログラムの成果として以下の点を挙げることができる。

- ・昨年度参加者の合計は7企画で205人であり、参加者は昨年よりも増加傾向にある。
- ・新規参加者の9割以上が<dista>を知り、必要なときに<dista>を利用するようになった。
- ・参加した人が次の企画や他のプログラムへ繋がりがやすいよう、広く広報をせず大手のソーシャルネットワーキングサイトなどを利用した広報戦略をとった。
- ・企画に<dista>へのアクセスを盛り込むことで<dista>へ行きやすくし、そこから他のプログラムへ興味や接触を持つ機会が得られるようにした。
- ・プログラムに関わるボランティア・スタッフを獲得する重要なプログラムの1つになっている。
- ・<SaL+>のアウトリーチに<step>の参加者が多数参加している。(実人数18人/2008年4月~2008年12月)
- ・PLuS+のボランティアに<step>経験者から33名参加し、ボランティアリーダーや実働的なスタッフとして中心的な役割を果たした。

- ・その他様々なMASH大阪のプログラムへ参加する入り口になった。
- ・これまでコミュニティと関わる機会が無かった人が、<step>を入り口としてゲイ・バイセクシュアル男性向けの施設やイベント等に出向くようになる等、コミュニティとの関わりを持つようになり、予防情報に触れる機会の向上に寄与した。

## 5. ハッテン場プロジェクト ~ ~

#### (事業の目的)

このプロジェクトは、関西圏の商業系ハッテン場において、利用者に対して十分な量の Condom とローションが、セックスが行われる場所からなるべく手の届く範囲において提供されるための環境を構築するために実施される。

商業系ハッテン場は、不特定多数の MSM がセックスすることを目的として集まる場所であることから、MSM のセクシュアル・ネットワークにおいて、中心性が強い空間であるといえる。実際にセックスを行なう空間であり、かつ会話などのコミュニケーションなしにセックスが成立する空間であるため、セーフターセックスに関するネゴシエーションを事前に行いにくい。そのため、この空間におけるセーフターセックスの実践は「利用者個々人の意識・態度」ならびに「施設の雰囲気・環境」に大きく左右される。

そこで本プログラムにおいては「施設の雰囲気・環境についての介入」を試みる。

京阪神圏の商業系ハッテン場において、利用者がセックスを行なうのに十分な量の Condom とローションが、セックスが行われる場所からなるべく手の届く範囲において提供される環境を、施設と十分に協議しながら構築する。

そして、利用者に対して安定的に継続して Condom とローションが提供された場合の Condom 使用率など、行動変容の推移を測

定する。

(方法)

このプログラムでは、関西圏の商業系ハッテン場の現地観察調査、オーナー・店長へのインタビュー調査(質問紙調査含む)、施設利用者へのインタビュー調査、利用者への質問紙調査、 Condominium とローションの提供プログラムを組み合わせ実施し、関西圏の商業系ハッテン場において、 Condominium 及びローションが利用者に対して十分な量で無償提供されるための環境を構築し、それに伴って利用者の感染予防行動がどのように変容するかを調査する。

本年度は、次年度の『 Condominium & ローション供給プログラムのパイロット事業』試行の準備期間と位置づけ、以下の予備調査を実施した。

1) 関西圏の商業系ハッテン場の施設数・規模・ Condominium & ローション提供実態の把握

MASH 大阪のアウトリーチにより把握している情報、ゲイ・バイセクシュアル男性向けの情報媒体(雑誌やウェブサイト等)の広告情報などを基に、関西圏の商業系ハッテン場の施設数を把握した。大阪市内の施設についてはボランティア・スタッフが赴き、建物規模や施設内容・ Condominium 及びローション提供実態などについて現地観察を行なった。

2) 関西圏の商業系ハッテン場の施設利用者数・セックス回数推計を行なった。

a) 大阪の MSM 向け商業施設を利用する人口の規模推定調査(山田/2007・2008)をもとに、関西圏の商業系ハッテン場の施設利用者数を推計した。

b) 関西圏の商業系ハッテン場の施設数・規模数、過去に MASH 大阪が実施したハッテン場オーナー懇談会から得られた情報をもとに、関西圏の商業系ハッテン場の施設利用者数を推計した。

3) ハッテン場オーナー・店長へのヒアリング

今後、関西圏の商業系ハッテン場のオーナー・店長に対してヒアリングを行い、施設規模・利用者人数・ Condominium とローションの無償提供の意思と実態、またそのための問題点について把握する(2009年1月~2月実施予定)。

4) ハッテン場利用者へのインタビュー調査

今後、関西圏の商業系ハッテン場を利用する人(利用者)に対してインタビュー調査を行い、利用施設・施設利用頻度・ Condominium とローションの使用実態、またそれについての問題点を把握する。(2009年1月~2月実施予定)。

(付記)

なお、上記「2) 関西圏の商業系ハッテン場の施設利用者数・セックス回数推計を行なった」に関して、詳細を以下に示す。

a) 大阪の MSM 向け商業施設を利用する人口の規模調査(流入人口調査:山田/2007・2008)により得た堂山地区、ミナミ地区、新世界地区の年間来場者の母集団推計(重なりを除いて実質 33,000 人)をハッテン場利用割合(各種調査から約 4 割)により除し、年間来訪回数(堂山地区メイン利用者 42.7 回/年、ミナミ地区メイン利用者 42.3 回/年、新世界地区メイン利用者 50.8 回の平均である 45.3 回/年)で補正した。これにより、商業系ハッテン場利用者の延べ人数が明らかになった。

推定

$$33,000 \text{ 人} \times 0.4 = 13,200 \text{ 人}$$

$$13,200 \text{ 人} \times 45.3 \text{ 回} = 597,960$$

結論

大阪地区のゲイタウン(堂山地区、ミナミ地区、新世界地区)利用者のハッテン場利用回数の総数は年間で約 60 万回。

b) 関西圏の商業系ハッテン場の施設数・規模数、過去に MASH 大阪が実施したハッ

ン場オーナー懇談会から得られた情報をもとに、関西圏の商業系ハッテン場の施設利用者数を推計し(表10)として示す。「ハッテン場オーナー・店長へのヒアリング」と、「ハッテン場利用者へのインタビュー調査」については、現在準備中であり、2009年1月から2月に実施予定である。

(考察)

1) 関西圏の商業系ハッテン場の施設数と、コンドーム及びローション提供実態について、大阪市内の施設の観察の結果によれば、サウナ系の大型施設やビデオボックス系施設、ミナミ地区・新世界地区の施設においては、コンドームは受付等に設置してあるか入場所に数個配布されるという状態であり、それらの施設ではローションについては基本的に無料配布・設置はされていない。堂山地区のヤリ部屋系の施設については、コンドーム・ローションともに、セックスを行なう場所の付近に設置されている施設が多い。今後行なうオーナーや店長へのヒアリング調査からより詳細な実態が把握可能と思われる。現時点で未調査の施設についても、可能な限り情報収集・現地観察を行なう必要がある。今後は、サウナ系の大型施設やビデオボックス系施設、ミナミ地区・新世界地区の施設において、コンドームやローションが、利用者に無料で提供される環境を構築する必要があるが、これを促進した場合、堂山地区のヤリ部屋系施設が既に提供しているサービスの優位性を低下させる可能性がある。十分に注意しながら進める必要がある。オーナーや店長からのヒアリングを通じて、どの施設に対しても不利益にならないように進める必要がある。

2) 関西圏の商業系ハッテン場の施設利用者数推計について

大阪のMSM向け商業施設を利用する人口の

規模調査に基づく利用者数推計については、ゲイタウンエリア外にあるハッテン場は計数対象となっていないが、サウナ系の大型店舗は全て計数対象となっており、大きな誤差は生じていないと考えられる。延床面積による推計は別途実施する予定であり、今後の研究デザイン作成の段階では精密な数値が提示できる。また、地域ごとの年間来訪頻度は本来平均すべきではないが、各地域来訪者の重なり補正にまだ検討の余地があるため、今回は平均値を利用している。いずれにせよ大きな誤差は生じないので、暫定値として問題ない。またハッテン場利用割合を今回4割としたが、各種調査により「サウナ系ハッテン場34.0% (クラブ調査2006)」「サウナ系ハッテン場44% (バー調査2007)」などばらつきがあるため、今回は暫定的に約4割として試算した。今後の延床面積による試算から、利用割合に頼らない算定が可能になると思われる。a) b) いずれの推計においても、関西圏の商業系ハッテン場の施設利用者数はのべ約600,000人との結果を得ており、大きな誤差はないものと考えられる。今後のオーナー・店長へのヒアリングと、利用者への質的調査の実施により、さらに確実性の高い推計が可能になると思われる。

## 6. 大阪地域MSMの人口流動に関する研究 - MSM向け商業施設の利用人口調査、MSM向け商業施設でのアンケート調査を基に -

(目的)

本研究はMSM向けHIV/STI感染対策プログラムを大阪地区で展開しているMASH大阪が、プログラムの立案と評価のために、クライアントである大阪地区に流入するMSM(とりわけMSM向け商業施設集積エリアである堂山

ミナミ 新世界 に流入するMSM)の人口

流動の実態を把握することを目的としている。

(方法)

現在までに、京阪神圏の各 MSM 向け商業施設集積エリア（大阪府大阪市北区堂山町 堂山、浪速区難波 ミナミ、恵美須東 新世界、兵庫県、京都府）の MSM 向け商業施設数と、当該エリアに流入する一日あたりの MSM 人口、及び推定される母集団の規模が判明している。また 2007 年に、大阪地域の MSM 向け商業施設利用者を対象としてアンケート調査を実施し、人口流動を推定する上での基本的データを得た。本研究はこれらの情報を基に、京阪神圏での MSM の人口流動の実体を推定するものである。

（結果）

平成 17 年国勢調査データを基に推定された MSM 人口（15 歳以上男性人口の 4%）は大阪府で約 15 万人、兵庫県で約 9 万人、京都府で約 4 万人である。一方で、MSM 向け商業施設数は、大阪府で 300 ヶ所を上回るのに対し、兵庫県で 20 ヶ所程度、京都府で 20 ヶ所程度であり差が大きく、県外への流出が想定される。一方で、2007 年に大阪地域のバー顧客対象の質問紙調査（1079 件の有効回答、回答率は 62.5%）を実施し、堂山地域来訪者の 26.5% が県外からの来訪者であるとの結果を得た。県外からの来訪者数はミナミで 17.6%、新世界で 17.3% となっている。内訳は兵庫県が最多であった。堂山 ミナミ 新世界の相互流入の状況としては、堂山利用者の 32.9% がミナミを訪れ、13.8% が新世界を訪れている。また、ミナミ利用者の 79.2% が堂山を利用し、29.2% が新世界を利用している。また、新世界利用者の 74% が堂山を利用し、64.7% がミナミを利用している。3 ヶ所とも利用者は堂山利用者で 10.4%、ミナミ利用者で 23.2%、新世界利用者で 51.4% であった。

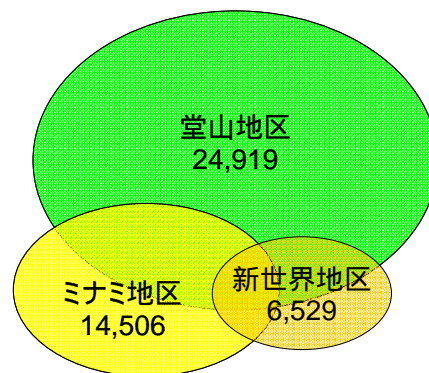
（結論）

大阪地域では、堂山 ミナミ 新世界の中で堂山地域への県外からの流入が最も多

く、マクロな人口流動が顕著である。一方、大阪地域内での人口流動では堂山からの流出は少なく、ミナミ、新世界から堂山への流入が顕著である。大阪地域の MSM 向け商業施設集積エリアの中で、堂山地域が核としての役割を果たしていることが明らかとなった。

3 地域の、重なりを除いた「商業施設利用 MSM の母集団（実数）」は約 33,000 人と推定された（図 1）。

【図 1】



全体の実数は約33,000人と推定

D. 考察

年度初頭に掲げた研究計画の項目にそって、研究事業の実施状況を総括する。



プログラム関連の事業継続	・ドロップインセンター-dista	ほぼ計画通りに執行されたが、利用者の増加は前年度に比べ1割増にとどまった 相談業務に進展がみられた
	・コミュニティペーパー-SaL+の事業継続	計画通りに執行されたが、中高年向けの情報発信媒体の創出が望まれた
	・若年層のネットワーク育成Stepの事業継続	計画通りに執行された
	・STI勉強会 Café Chatの事業継続	前年度獲得されたレベルが質・量ともに維持された
	・ハッテン場プロジェクト	ハッテン場の利用状況を調査した。またオーナーへのヒアリングを執行中である。調査結果に基づき、ポスター配布、 Condom配布等の介入プログラムデザインに取り組み中
アウトリーチ関連	・新たな商業施設との連携	新世界地区での新規開拓が課題として残った
アドボカシー関連の事業継続	・行政との協働事業の展開	地方自治体（大阪府・大阪市・京都府）との連携が順調に推移
	・CBOとの連携事業の展開	薬物依存関連 CBO，野宿者向け結核予防関連 CBOとの連携が進展した
研究関連	・プログラムの効果評価	2006年度に引き続きクラブ調査が実施された
	・ニーズアセスメント	ミナミ地区、新世界地区利用者層の移動に関する調査が実施された
学会等での情報発信	日本エイズ学会	演題発表（1題）を行った MSM関連シンポジウムを企画・運営した

## E. 結論

1. プログラムはおおむね計画通りに継続された。コミュニティペーパーは中高年層の新たなニーズに応えることが望まれ、STI勉強会は次の展開を狙う位置にある。ドロップインセンターでは相談業務に進展がみられた。
2. ハッテン場への予防介入プログラムに大幅な進展がみられた。来年度に向けて進捗が期待される。
3. クラブ調査の結果、MASH 大阪の認知、関連知識、検査行動、予防行動のいずれも上昇傾向にあることが分かった。特に受検率は2006年度の37%から45%に大幅に向上した。コンドーム使用率は上昇傾向にあるが、プログラムとの接触による影響は直接的には示唆されなかった。
4. 大阪地域 MSM の人口流動に関する研究が実施され、近畿圏のMSMの移動において堂山が移動の結節点になっている状況が明らかになった。

## F. 発表論文等

（論文発表）

- 1) 市川誠一、木村博和、鬼塚哲郎、松原新、佐藤未光、井戸田一郎：MASHによる啓発活動，総合臨床，50：2805-2810，2001
- 2) 鬼塚哲郎：ゲイコミュニティへの予防介入事業，その現状と課題，日本エイズ学会誌，第6巻，第3号：141-144，2004
- 3) 鬼塚哲郎、辻宏幸：MASH 大阪によるゲイコミュニティ向けHIV/STI予防活動，保健師ジャーナル，第61巻，第2号：184-188，2005
- 4) 市川誠一、張由紀夫、佐藤未光：MSMコミュニティにおけるコミュニティセンターaktaの役割と活動，保健医療科学，2007，56巻3号，230-234
- 5) 金子典代、市川誠一、辻宏幸、後藤大輔、塩野徳史、鬼塚哲郎：健康教育ツールを開発しよう、計画 ツールを使えるものにするための最後の押さえどころ-MASH大阪による健康教育資材の紹介，保健師ジャーナル，2007，63巻12号，1142-1149
- 6) 金子典代、市川誠一、辻宏幸、鬼塚哲郎：健康教育ツールを開発しよう、計画 対象

者にひびくメッセージをつくろう、保健師  
ジャーナル, 2008, 64 巻 1 号, 82-89  
鬼塚哲郎、山田創平：感染に脆弱な集団に  
どう予防介入するか～マイノリティ集団  
における一次予防、二次予防、三次予防  
のあり方を検証する, 治療学,  
vol.42-no.5, 2008

【表 1：2008 年度配布実績】

期間	配布された施設 (昨年度の数值)	送付団体・個人 (昨年度の数值)	配布された部数 (昨年度の数值)	配布スタッフ延べ数 (昨年度の数值)
2008 年 4 月	195 店舗(192 店舗)	33 団体( 26 団体)	6733 部(6697 部)	23 名(26 名)
2008 年 5 月	195 店舗(192 店舗)	32 団体( 26 団体)	6808 部(6537 部)	20 名(24 名)
2008 年 6 月	189 店舗(186 店舗)	34 団体( 26 団体)	6893 部(6642 部)	22 名(25 名)
2008 年 7 月	190 店舗(186 店舗)	35 団体( 27 団体)	6720 部(6597 部)	17 名(12 名)
2008 年 8 月	192 店舗(185 店舗)	35 団体( 27 団体)	7770 部(6447 部)	20 名(14 名)
2008 年 9 月	192 店舗(183 店舗)	36 団体( 27 団体)	7760 部(6242 部)	37 名(25 名)
2008 年 10 月	190 店舗(185 店舗)	35 団体( 29 団体)	6680 部(6223 部)	18 名(23 名)
2008 年 11 月	191 店舗(187 店舗)	36 団体( 31 団体)	6620 部(6572 部)	18 名(17 名)
2008 年 12 月	190 店舗(190 店舗)	37 団体( 30 団体)	6595 部(6567 部)	7 名(24 名)
2009 年 1 月	190 店舗(190 店舗)	37 団体( 30 団体)	6593 部(6507 部)	19 名(21 名)
2008 年 4 月 ~ 2009 年 1 月	月平均 192 店舗	月平均 35 団体	合計 67172 部 (月平均 6717 部)	合計 201 名 (月平均 20 名)

【表2：Cafe Chat プラグラム実施状況】

開催日	プログラム	参加者数 (新規参加者)	内容
2008年3月	・「HIVについて」	32名 (8名)	distaで開催中のequal partner projectの展覧会「+ - =」とカフェイベントを融合させ、来場者との対話を行った。また、内容や感想についてアンケートを行った。
4月	・「春物 セックスワードロブ」	32名 (22名)	カフェスタイルで実施。ゲイライフやSEX、STIにまつわるキーワードを記載した単語カードを作成し、会場に配置した。それらの中から3ワードを選択してもらい(内STIカードは必ず1つ以上は選択)その単語についての説明を用紙に記述し、それをもとに対話を行った。使用資材 単語カード、記述用紙
5月	・「聞かせて！ゲイ初体験記！」 ・STI勉強会 「検査について」	11名 (7名)	イベント、メディア、初恋、セックス、堂山(ゲイタウン)、ゲイ友と記載したサイコロを振ってもらい、出た目のキーワードをもとにプレゼンをしてもらった。使用資材 サイコロ、STI勉強会 検査場と検査内容について等解説。質問コーナーを設けて解説を行った。
6月	・「男のカラダ」 ・STI勉強会 「HIV/AIDSのこと」	7名 (1名)	自分の体(理想とする体、現状など)とイケル体について、身体の部位別に得点付けして、レーダーチャートに記載してもらった。点数のつけ方や、身体についての考えをメインに対話を行った。使用資材 レーダーチャート用紙、STI勉強会 equal partner project制作の冊子から文章を抜粋し、それを基に対話を行った。
7月	・「Safer Sex」	9名 (4名)	5W1Hをもとにイケル男とSafer Sexをするといった前提を設け、どんな行為をするのかを紙に記述し、それをもとに意見交換を行った。自分にとってのSafer Sexについて考える機会を促した。使用資材 5W1H記述用紙。記述された内容はPLuS+の展覧会で使用した。
8月	・「イっちゃう肌×肌」 ・STI勉強会 「How about you ~SEX編~」	6名 (1名)	身体部位を記載したカードを作成し、それを基にTP0に応じたスキンシップについて意見交換を行った。使用資材 身体部位カード、STI勉強会 あなたならこういう時どうする?という設問でSEX時に想定される状況に対し、どのように対処するかを意見交換した。
9月	・「ウケ to タチ & タチ to ウケ」	13名 (6名)	ウケ・タチ・リバそれぞれの立場からの考えや経験などをもとに意見交換を行った。相手に求めること、冷めること、自分や相手に求めるSafer Sexに対する態度などについてを共有した。使用資材 記入シート。
10月	PLuS+2008 展示 パビリオン 「Safer Sex??」	294名 (来場者のべ)	Safer Sexから連想される言葉を書いてもらった紙を展示した。来場者がそれをもとに意見交換する姿が見受けられた。また来場者にも連想される言葉を書いてもらいそれを展示した。
11月	・「秋にイっちゃう!デート」	5名 (1名)	デートでの実体験や理想のデートについてをフローチャート用紙に記入し、意見交換を行った。その際に必ずSEXをするという前提条件を設け、その中にSafer Sexをする場合についても意見として盛り込んでもらった。使用資材 フローチャート記入用紙
12月	・「SEXプロセス」	6名 (3名)	SEXのプレイの流れについてフローチャートに記入し意見交換を行い、自身のSEXを振り返る機会とした。その中でSafer Sexとして工夫できるプレイに触れ、それぞれの価値観を共有した。使用資材 フローチャート記入用紙
1月	・「ゲイ春!セックスカルタ会」	8名 (2名)	ゲイのセックスや恋愛に関する歌をカルタにし、参加者で取り合うゲームを行った。歌に盛り込まれているセックスやSTIのネタをもとに解説や意見交換を行った。
2月	・「SEXクエスチョン」	7名 (2名)	セックスに関する疑問や質問をその場で募り、参加者でそれについて相談するという企画。事前インタビューで得た疑問についても触れた。

【表 3 : dista 利用状況 2008 年度】

期間	業務/貸出 利用者	イベント来場者 (うち初来場者)	ふらっと来た人 (うち初来場者)	相談・情報入手 (うち初来場者)	合計 (うち初来場者)	稼働時間
2008 年 4 月	61 名	173 名 (35 名)	380 名 (27 名)	4 名 (2 名)	618 名 (64 名)	155.0 時間
5 月	132 名	275 名 (24 名)	489 名 (36 名)	11 名 (3 名)	907 名 (63 名)	210.0 時間
6 月	146 名	198 名 (35 名)	426 名 (31 名)	3 名 (2 名)	773 名 (68 名)	180.5 時間
7 月	97 名	157 名 (39 名)	559 名 (47 名)	5 名 (0 名)	818 名 (86 名)	203.0 時間
8 月	115 名	131 名 (6 名)	684 名 (80 名)	1 名 (1 名)	931 名 (87 名)	203.0 時間
9 月	128 名	114 名 (11 名)	508 名 (58 名)	5 名 (5 名)	755 名 (74 名)	199.0 時間
10 月	280 名	372 名 (98 名)	520 名 (61 名)	0 名 (0 名)	1172 名 (159 名)	207.0 時間
11 月	111 名	195 名 (40 名)	525 名 (45 名)	4 名 (3 名)	835 名 (88 名)	199.0 時間
12 月	88 名	205 名 (34 名)	468 名 (15 名)	2 名 (2 名)	763 名 (51 名)	184.0 時間
1 月	54 名	159 名 (24 名)	424 名 (36 名)	2 名 (0 名)	639 名 (60 名)	162.0 時間
2 月	<del>名</del>	<del>名(名)</del>	<del>名(名)</del>	<del>名(名)</del>	<del>名(名)</del>	<del>時間</del>
3 月	<del>名</del>	<del>名(名)</del>	<del>名(名)</del>	<del>名(名)</del>	<del>名(名)</del>	<del>時間</del>
年度合計	1212 名	1979 名 (346 名)	4983 名 (436 名)	37 名 (18 名)	8211 名 (800 名)	1902.5 時間
月平均	121.2 名	197.9 名 (34.6 名)	498.3 名 (43.6 名)	3.7 名 (1.8 名)	821.1 名 (80.0 名)	190.25 時間

【表 4 : 利用者数年度別推移】

年度	合計	月平均
2003 年度 (平成 15 年度)	3436 人	286.3 人
2004 年度 (平成 16 年度)	5910 人	492.5 人
2005 年度 (平成 17 年度)	6187 人	515.5 人
2006 年度 (平成 18 年度)	8402 人	700.2 人
2007 年度 (平成 19 年度)	9377 人	781.4 人
2008 年度 (平成 20 年度) 12 月末現在	7573 人	841.4 人

【表5：カフェイベントの実施状況】

カフェイベント	頻度・会期		平均参加者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	参加者合計	
東方美男(中国茶カフェ)	隔月1回	第1土曜	38(5)		70(8)											269(36)	
cafeSMILE(映像カフェ)				16(6)		30(0)			36(6)		35(10)	29(0)					
sweets world(洋菓子カフェ)									53(6)								
STEP(10代～20代企画)	月1回	第2土曜	56(11)		57(11)		53(5)			58(18)						168(34)	
cafeCHAT(STI勉強会)				32(21)	23(4)	30(1)		30(5)		18(0)							
cafeCHAT(カフェ)		第3土曜	53(12)	28(5)	58(3)	29(2)		32(3)			23(1)					423(97)	
CAMP!(映画カフェ)						69(28)	68(28)						46(8)				
global gays(外国籍のゲイ)									29(1)								
bar三角関係(アニメ音楽)												93(24)					
bruit blanc(ロック音楽カフェ)				第4土曜	42(5)	58(2)	35(3)	49(4)	28(9)	66(13)	40(1)		21(2)				
Salon de Oni(ワインカフェ)																	
ゲイスタ(新生活応援)	単発企画	第5土曜	43(2)													171(7)	
平凡ボンチ(5/31)	単発企画				33(1)												
収穫祭(8/30)	単発企画							51(0)									
café Link	単発企画										41(3)						
めがねcafé	単発企画											46(3)					
ラウンジ波	随時				54(2)	54(2)											
プリンセス・ア・ラ・モード	PLuS+	61(15)							29(4)							244(58)	
CAFÉ MINUS	PLuS+								80								
入江さんトークショー	PLuS+								73(54)								
PLuS+打ち上げ	PLuS+								62(0)								
bond lab opening party	展示企画		48(16)									48(16)				48(16)	
新規イベント参加者 計				34	32	34	43	23	14	79	40	24				323	
イベント参加者 合計				134	330	177	179	231	138	343	218	141				1891	

\* 「平均参加者」の内、太線の囲みは新規来場者の多いイベント

【表6：相談件数の推移】(電話相談・別目的での来場後に相談へ移行したものを含む)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
2004年度	1件	3件	4件	3件	0件	1件	0件	0件	0件	3件	3件	0件	18件	1.5件
2005年度	2件	2件	0件	4件	1件	5件	1件	1件	1件	1件	0件	1件	19件	1.6件
2006年度	6件	10件	4件	0件	1件	7件	1件	3件	3件	6件	3件	5件	49件	4.0件
2007年度	5件	7件	23件	15件	9件	7件	19件	5件	5件	0件	0件	2件	97件	8.1件
2008年度	19件	10件	19件	18件	20件	19件	21件	32件	18件	23件			199件	19.9件

【表7：相談内容の状況】

2008年	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		
	MSM	NMSM	MSM	NMSM	MSM	NMSM	MSM	NMSM	MSM	NMSM	MSM	NMSM	MSM	NMSM	MSM	NMSM	MSM	NMSM	MSM	NMSM	
HIV感染不安				1	1	1	2		1		3									2	
STI感染不安													2					1			
HIV検査に関する相談/報告	1		1		1		1				2							2			
STI検査に関する相談/報告															1		1				
エイズに関する一般的な質問				1							1						1				
HIV陽性者としての生活/制度など							2		1						3						
HIV陽性者支援について					3															1	
相談機関紹介	1						1		1	1	1	1								2	
LGBTコミュニティ、ネットワーク紹介	3	3			1	3														1	
店舗情報紹介			1		1		2		2											2	
パートナーとの関係について							1		1		3				2		1				
家族との関係について							1		1						1					1	
結婚について	1								1		1		1				1			1	
進学・仕事・就職について	1		2		1		4		1		2	1	7		3					3	
金銭問題・経済的な不安/問題	2		2		1		1		1						3		2			1	
将来についての不安									2						2		1				
シニアとしての生活不安	1		1																		
恋愛相談	1						1						2		1		1			1	
精神的不安	1						1		1		2						2			1	
アイデンティティ、カミングアウトについて	1	1			1				1				3		1		1	1		3	
薬物使用について									1											1	
薬物依存からの回復について					1	1	1														
医療機関への緊急搬送支援	1																				
口腔ケアについて					1																
研究デザイン・論文等について									3	1					3	9	1	2	2		
医療相談													3								
NPO/CBO組織運営について															2	1				1	
その他	1		1		2						1	1	3								
MSM / NMSM(件)	15	4	8	2	14	5	18	0	18	2	16	3	21		22	10	15	3	19	4	
合計(件)			19		10		19		18		20		19		21		32		18		23

【表8：実施状況】

時期	企画	参加者			参加者の dista 流入			SNS 数
		合計	内訳		合計	内訳		
			step 初参加	参加経験あり		新規来場者	リピーター	
4月	お花見 step	57	30	27	40	25	15	298
5月	café STEP	51	11	40	51	11	40	300
7月	Cafestep	48	10	38	48	10	38	307
7月	海 step	18	5	13	15	3	12	310
7月	G4 for step	5	0	5	5	0	5	313
10月	café step	54	18	36	54	18	36	314
1月	スケート	14	4	10	9	2	7	313
合計		247	78	169	222	69	153	

【表 9】

アウトリーチへの参加	18 人
SaL+への参加	5 人
Café CHAT へ参加	10 人
dista コンシェルジュへの参加	2 人
Community space dista へ新規来場	67 人
PLuS+2008 ボランティア	33 人
合計	103 人

【表 10】

府県	地区	施設分類	1 施設あたり平均			店舗数	年間総利用者数 (のべ)		
			人/週	人/月	人/年		施設分類別	地区別	府県別
大阪府	堂山地区	サウナ	2500	10000	120000	2	240000	331200	568800
		ヤリ部屋	200	800	9600	6	57600		
		ビデオボックス	150	600	7200	3	21600		
		SM ルーム・バー	50	200	2400	5	12000		
	ミナミ地区	ヤリ部屋	200	800	9600	2	19200	28800	
		ビデオボックス	150	600	7200	1	7200		
		SM ルーム・バー	50	200	2400	1	2400		
	新世界地区	サウナ	2000	8000	96000	2	192000	204000	
		ヤリ部屋	200	800	9600	1	9600		
		SM ルーム・バー	50	200	2400	1	2400		
京橋地区	ビデオボックス	100	400	4800	1	4800	4800		
京都府	京都市	ヤリ部屋	200	800	9600	2	19200	19200	21600
	福知山	ヤリ部屋	50	200	2400	1	2400	2400	
兵庫県	神戸市	サウナ	100	400	4800	1	4800	14400	16800
		ヤリ部屋	100	400	4800	1	4800		
		ビデオボックス	100	400	4800	1	4800		
	姫路市	ヤリ部屋	50	200	2400	1	2400	2400	
3 府県	8 地区					32 店舗	607200 人		